

審 議 会 等 の 会 議 結 果 報 告 書

		課所名	総務課
会 議 名	令和7年度 第1回 諏訪市議員報酬及び特別職給料審議会		
開催日時	令和7年 7月 2日(水) 13時 30分 から 15時 30分まで		
出席者	(出席者(順不同・敬称略)) 【委員】 山谷 恭博、太田 篤憲、白鳥 和美、宮沢 幸一、鴨志田 明子、矢沢 康孝 渡辺 芳紀、名取 まゆみ、宮下 和昭、北原 弘子 【事務局】 松木総務部長、坂上総務課長、幅職員係長、岩波主査 (傍聴者)記者 2名		
資 料	諏訪市常勤特別職等の給料及び市議会議員の報酬改定の推移 19市の状況比較 等		
協議議題(内容)及び会議結果(要旨)			
1. 開会 2. 委員の任命 3. 市長あいさつ 4. 委員及び事務局の紹介・・・各委員から一言いただき、事務局を紹介 5. 委員会会長の互選について 6. 会長職務代理者選任について 7. 諏訪市議会議員の報酬額並びに市長、副市長及び教育長の給料の改定について(諮問) 8. 協議事項(会長が進行) (1) 審議資料の説明・・・市 会長・・・今回は説明を受けた資料をもとにどのような印象を持ったか、各委員にご発言いただきたい。 委員・・・期末手当についてお聞きしたい。企業でいうと業績によって、支給率は変わるもの。 また、新型コロナウイルス感染症がまん延していた際には支給がないという厳しい状況もあった。そういった中で、報酬も含め基本的にはここは変わらないという認識でよろしいか。 市・・・毎年、人事院勧告が出され、議員等特別職も市職員も国に準拠している。景気によって左右			

される。景気が悪いとマイナスの勧告になり、逆にここ2年は景気が良くプラスの勧告になっている。

委員…民間企業では業績のほかに個々の業績に応じた査定があるが、議員の方にも査定はあるのか？

市…ない。

委員…新型コロナウイルス感染症により非常に日本経済は打撃を受けた。今は少しずつ回復している。今のタイミングが報酬をあげるということにおいて、本当に良いことなのか考えるというのが大事になってくる。そのくらいコロナが日本の社会にもたらしたものは大きかったと感じている。

委員…今回お話を聞いて、この金額で議員をやっていると思うくらいの金額だったと感じている。もっと高いという印象があった。

委員…国が賃金上昇を進めているが、中小企業では非常に苦しい。どんどん利幅が下がりあまり手取りが増えない中で、今回の報酬金額を見るとたくさんもらっているという印象。

委員…大企業・中小企業共に、賃金は上昇している傾向にある。ただし、両者の格差は縮まっていない。

委員…資料にある県内19市の比較で見た時、ある程度妥当な金額であると思っていました。

委員…議員をやっていたが、議員のなり手がいない。若い人たちが議員になりたがらないという傾向がある。若い人たちに多く議員になってもらいたいという希望をもってもらえたら、もう少し報酬を上げてもいいのでは。一方で、議会の開会等は365日中100日程度であり、議員活動をする人としていない人では活動内容にはかなり差がある。

特別職については、ちょうど名古屋市長が倒れたりというニュースがあり、かなり多忙である。実際に土日の活動もあり今回はある程度改定してもいいのではないかと感じる。ただ、諸物価の高騰を鑑みた時の妥当性を考えていく必要もある。

会長…事務局から説明のあった、報酬と給料について。給料は生活に係るもの、報酬は果たして生活に係るものか。生活をできる給料(報酬)という訳ではないのではないかと感じる。

若い人のなり手がいないことについて、これが報酬額に係るものか、精査する必要があると考える。熱心な議員・そうではない議員がいるが、どれだけの実績を残したかをどのようにチェックしていくかは必要になる。

議員の活動は自分の理想に向かって環境の整備をし、良くしていくために活動するのであって、報酬が目当てではない。一方で議員数の削減も行っており、同じ結果が出るならば議員の労働負担が高まっているとも言え、それであるのなら報酬をあげる必要があるとも言える。

委員…地域に対しての活動や研究等に個人差がある。その評価を誰がどのように行うか。正当な評価をして少なければ上げてもいいのかと感じる。評価の内容で上がったか下がったかではないかと感じる。

委員…個人的には経済を回す立場にいますので、改定増について考えていきたい。一方、公共団体は税金によって運営されているため、財政収支を痛めるような改定はできないのではないかと感じる。昨今の経済情勢等を踏まえると引上げを前向きに検討しつつ、財政状況をみながらであると感じる。積極的な理由を持って据置、引上げの結論を出せるような検討及びデータの収集等をしていきたいと感じた。

委員…企業の給与が上がっている中で長い間上がっていないことに衝撃を受けた。

委員・・・議員活動の報告は課せられた義務とも言える。最終的に成果をどう評価されるかは投票によって決まると考える。そういった活動をしない議員に関しては市民の目も厳しいものがある。課題を解決してくれるという議員はよくやっていると評価される。議員の中には会社勤めしている人、自営の人、無職の人もある。これからは、なり手不足ということで、こういう形が良いかわからないが、例えば会社から支給される給料から議員報酬を差し引いた残りを企業で面倒をみる、だから企業に席がまだある、そうすると議員は安心して生活ができるということになる。

委員・・・議会を傍聴する人が増えるくらいの議会になればいい。議員になることがステータスだった時代もあったが、今はそういう感覚も市民にはない。市民が議員に期待することもあまりないのではないかな。もう少し市政に市民が興味を持つために議員が仕事をどこでどうしたかを見えることを考える必要がある。

市民ももう少し興味を持たないと。議員の中には、熱心に活動報告を送ってくれる人もいる。そうしてくれるとやっていることが分かる。でも議員の仕事の結果をどこでどう見るのか。私は議員は市民の声を議会で提案してそれが反映されていく、これが議員の仕事だと思う。議員のなり手もないし、ダブルワークは国も認めている。今の議員の状態を把握していないが、だいたい聞いてみると退職し、年金を受給したり仕事をもってダブルワークをしている方も何人かいるようで、その辺によっても報酬の何か基準になるような気もする。

委員・・・議会によく傍聴に行く。地域から応援して議会に送った以上、議員が市民のためにやっていることを見る。でも結構寝ている議員もいる。何で議会に出席しているんだという議員もいる。

自分が地域のためにやるぞという議員は、一生懸命やっている。

発言を見ても、市民の代表で来たんだから市を責めるのではなく、あなたが議員として全うしなかつただけじゃないの、と傍聴して思う。

市・・・議員の仕事の評価についてお話があったが、職員側が議員を評価するものではないと考える。一律にもらえるから報酬という形でお支払いしている側面もある。今の市の職員 40 代くらいの課長補佐級の職員の給料と議員の報酬は同じくらいなので、40 代の職員が生活できるくらいの額ではある。

会長・・・年収ベースでみると 600 万円。一般的にはどうか。

委員・・・かなりの金額。給料としてもかなり良いと思う。

議会の会期はどのくらいあるのか。

市・・・会期としては概ね 20 日×4、その他の臨時会等もあるので 100 日くらいを想像してもらえばよいと思う。

委員・・・どこもやっていないと思うが、期末手当の部分だけ見極めるというのはどうか。どこもやっていないからこそ諏訪市がやる。評価をすることで議員の活動が見えるのはいいのでは。

会長・・・報酬に対してそういった評価はできるか？

市・・・期末手当は評価の対象にならない。市職員では勤勉手当があり、それは評価の対象である。

市・・・誰が議員を評価するのかという課題もある。職員ではなく、市民がどのように評価するかという視点で考えなければならぬので現実的には少し難しいと感じる。

会長・・・報酬に反映はしないが勤務評価自体は市民に知らせることができるのでは。

委員・・・9 月までの審議にあたっての参考資料について諏訪市の財政がこの 10 年でどのようになったか。判断する一つの材料としたい。

委員・・・議会のあり方を議会で決めたい。議会を夕方 6 時から始めればサラリーマンでも参加できる。そういったあり方を議会側が考えてもよいのでは。

会長・・・次回の審議に向けて各委員が各課へアプローチすることは可能か。

市・・・総務課で一度引き受けさせてほしい。

会長・・・9 月の次回審議会日時は事務局から連絡がある。様々な観点からどのようにしたらいいか。どういった対応をすればよいか、事務局に資料等を取り寄せていただいて大丈夫ですので、それぞれのご判断で決めていただき、最終的には多数決で決めたいと考えている。議員と直接お話しをしてもよい。

また、委員同士で情報交換をしてもらうこともよいと考える。

市・・・次回の審議会の際に議員に説明を求めることも可能。しっかりとした審議ができればその方がよいと考える。

9. その他 事務連絡

10. 閉会